

基礎助産学

助産学概論

母子の基礎科学

女性の健康科学

家族の心理・社会学

カウンセリング技法

健康教育演習

助産学研究

| | | | | |
|-----------|---|--|-------|--------|
| 科目名 | 助産学概論 | | 科目責任者 | 池村 さおり |
| 単位 | 1単位 (30時間) | | 開講期 | 前期 |
| ディプロマポリシー | <input checked="" type="checkbox"/> 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 <input type="checkbox"/> 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 <input type="checkbox"/> 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 <input type="checkbox"/> 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 <input checked="" type="checkbox"/> 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。 | | | |
| 科目の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 助産学の基本概念・定義について学び、助産師の職業倫理や女性を取り巻く社会・母子保健の動向、チーム医療を踏まえて、助産師の役割と責務について学ぶ。 生命倫理について様々な視点から考え、助産師として柔軟で多様な思考もつ力を養う。 講義やグループワーク等を通して自らの助産観を養う。 | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 助産学の基本概念と助産師の定義について学び、女性が健康に過ごすための助産師の役割について説明できる。 助産学と実践における理論と研究の必要性について理解する。 助産師の倫理綱領について理解し、専門職としての助産師の責務について説明できる。 日本と諸外国の出産・助産の歴史と文化・助産師教育について学び、対象を尊重した支援の必要性について理解する。 母子保健の変遷・動向および諸制度を学び、チーム医療における専門職としての助産師の役割について説明できる。 家族計画の意義、指導の実施に必要な法的知識を理解し、女性の意思決定を支援するための受胎調節の方法を説明できる。 助産師と生命倫理について学び、自己の助産観を見出すことができる。 | | | |
| 講義計画 | 回数 | 講義内容 | | 担当教師 |
| | 1 | 助産の概念 助産師の定義と業務 | | 立岡弓子 |
| | 2 | 女性の健康への理解 女性の健康と人権 助産師の役割 | | |
| | 3 | 助産学を支える理論と研究 | | |
| | 4 | 助産師と倫理 | | |
| | 5 | 助産の歴史と文化 | | |
| | 6 | 助産師と政策への参画 | | |
| | 7 | 母子保健の歴史 母子保健の動向と課題 チーム医療の必要性和調整と連携 人工中絶の現状と母体に及ぼす影響、受胎調節の有効性 | | 池村さおり |
| | 8 | 助産師とは 助産師と法（母体保護法） | | |
| | 9 | 家族計画の意義と目的、受胎調節種類と実施方法 | | |
| | 10 | 家族計画への支援についてグループワーク | | |
| | 11 | 助産師と生命倫理 障がいと向き合うこと、死と向き合うこと | | 竹之内裕文 |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | 池村さおり |
| 15 | 筆記試験 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験（立岡40点、池村30点） レポート（竹之内30点） | | | |

| | |
|-----------------|---|
| 指定図書 | <ul style="list-style-type: none">・我部山キヨ子、安達久美子編：助産学講座1 基礎助産学[1]助産学概論、医学書院 (立岡弓子先生・池村先生使用)・堀内成子、片岡弥恵子編：助産学講座5 助産診断・技術学I、医学書院 (池村先生「家族計画の意義・目的」で使用)・福井トシ子、井本寛子編：助産師業務要覧 第4版 I 基礎編 2024年版、日本看護協会出版会 (池村先生使用)・福井トシ子、井本寛子編：助産師業務要覧 第4版 II 実践編 2024年版、日本看護協会出版会 (池村先生使用) ・立岡弓子著：女性の健康と看護、サイオ出版 (立岡弓子先生使用)・看護行政研究会著：令和5年度版 看護六法、新日本法規出版社 (池村先生使用)・竹之内裕文著：死とともに生きることを学ぶ 死すべきものたちの哲学 ポラーノ出版 (竹之内先生使用) |
| 参考図書 | <ul style="list-style-type: none">・工藤美子編：助産師基礎教育テキスト第1巻 助産概論、日本看護協会出版会・竹之内裕文著：喪失とともに生きる、ポラーノ出版 |
| 事前・事後 学習 | 日頃から新聞やテレビの報道等から、社会情勢に興味を持ち授業に臨みましょう。 |
| その他 (ICTの活用) | ※2、8、9、10、11、12は受胎調節実地指導員認定講習の基準内容 医学書院eテキストを使用します。 グループワークの発表はパワーポイントなどを用いて行う予定です。 |

| | | | | |
|-----------|---|--|-------|--------|
| 科目名 | 母子の基礎科学 | | 科目責任者 | 池村 さおり |
| 単位 | 1単位 (30時間) | | 開講期 | 前期 |
| ディプロマポリシー | <input type="checkbox"/> 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 <input type="checkbox"/> 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 <input type="checkbox"/> 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 <input checked="" type="checkbox"/> 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。 | | | |
| 科目の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・助産診断・ケアを行うための基礎となる人間の身体のしくみについて学ぶ。 ・妊娠成立の機序と妊娠から産褥における母体の変化と正常な経過や異常時の状態・検査・対応の基礎的知識を習得する。 ・新生児・乳幼児の心身の成長・発達と疾患について学ぶ。 ・助産ケアを行うための基礎となる母子の歯科保健の知識を習得する。 | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 助産診断に必要な妊娠・分娩・産褥期の生理と機能について理解する。 2 妊娠・分娩・産褥期における異常の病態および遺伝疾患や母子感染とその医療処置について理解する。 3 新生児の生理および乳幼児の成長発達について理解する。 4 新生児、乳幼児の異常と疾患、医療処置について理解する。 5 周産期における女性への歯科保健と新生児・乳幼児の歯・口腔の発達と歯科保健について理解する。 | | | |
| 講義計画 | 回数 | 講義内容 | | 担当教師 |
| | 1 | リプロダクションに関する解剖生理 | | 根本泰子 |
| | 2 | (人間の身体のしくみ・ホルモン・妊娠成立の機序) | | |
| | 3 | 妊娠の生理 (妊娠各期の母体の変化、胎児の成長と発達、臓器の成熟と器官形成) | | |
| | 4 | 周産期の遺伝医療と遺伝カウンセリング (染色体・遺伝子・出生前診断) | | |
| | 5 | 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠 妊娠期に行われる産科手術 | | |
| | 6 | 分娩の生理 | | |
| | 7 | 分娩期の異常・偶発疾患 | | |
| | 8 | 産科手術および産科的医療処置 救急処置 | | |
| | 9 | 産褥の生理 産褥期の異常・偶発疾患 | | |
| | 10 | 新生児の適応生理と成長・発達 正常経過逸脱にある新生児の診断 | | 西田光宏 |
| | 11 | 出生後から早期新生児期までの胎外環境適応状態の評価 乳幼児の成長・発達 | | |
| | 12 | 新生児期のおもな疾患の病態・診断・治療 | | 水谷祐喜子 |
| | 13 | 低出生体重児・早産児の特徴と疾患 乳幼児のおもな疾患の病態・診断・治療 | | |
| | 14 | 歯科保健：(妊娠期、産後、新生児、乳歯と永久歯) | | 高森康次 |
| 15 | 筆記試験 | | 池村さおり | |
| 評価方法 | 筆記試験 (根本 50 点、西田 20 点、水谷 20 点、高森 10 点) | | | |

| | |
|-----------------|---|
| 指定図書 | <ul style="list-style-type: none">・我部山キヨ子、武谷雄二、藤井知行編：助産学講座2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 医学書院（根本先生使用）・我部山キヨ子編：助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学、医学書院（高森先生使用）・我部山キヨ子・武谷雄二編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期、医学書院（根本先生使用）・我部山キヨ子、藤井知行編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 医学書院（根本先生使用）・石井邦子、廣間武彦編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 医学書院（西田先生・水谷先生使用）・仁志田博司編：新生児学入門 第5版、医学書院（西田先生・水谷先生使用） |
| 参考図書 | |
| 事前・事後 学習 | 母子の健康について、基礎的知識を学ぶ機会としています。今後の助産診断において根拠となるための確実な知識として身につけてください。 |
| その他 (ICTの活用) | ※2、3は受胎調節実地指導員認定講習の基準内容 医学書院eテキストを使用します。 |

| | | | | |
|--------------|---|---|-------|--------|
| 科目名 | 女性の健康科学 | | 科目責任者 | 池村 さおり |
| 単位 | 1単位 (15時間) | | 開講期 | 前期 |
| ディプロマポリシー | <input type="checkbox"/> 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 <input type="checkbox"/> 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 <input type="checkbox"/> 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 <input checked="" type="checkbox"/> 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。 | | | |
| 科目の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 女性のライフサイクル各期における身体の変化や生殖器の主な疾患・検査・治療について学ぶ。 女性のライフサイクルの中の生殖についてとりあげ、生殖補助医療や着床前診断・出生前診断について学び、その課題を考える。 | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 女性のライフサイクル各期の疾患と治療について理解する。 不妊症の治療過程や生殖補助医療などの、性と生殖に関する母子の健康を支援について理解する。 周産期における薬剤使用の原理・原則を理解する。 ライフサイクル各期の女性を支援するための、東洋医学について理解する。 | | | |
| 講義計画 | 回数 | 講義内容 | | 担当教師 |
| | 1 | 生殖補助医療（生殖補助医療の実際と問題点） 母子と免疫 | | 岩崎真也 |
| | 2 | 母子と感染 婦人科感染症 | | 橋本正広 |
| | 3 | 女性のライフサイクル各期におけるおもな疾患（思春期・成熟期・更年期・老年期） 女性生殖器と乳房の疾患 | | 谷本慧子 |
| | 4 | 妊娠期・分娩期・産褥期に用いる薬剤 | | 鈴木明子 |
| | 5 | | | |
| | 6 | 東洋医学（女性のための漢方治療） | | 八木知子 |
| | 7 | | | |
| | 8 | 筆記試験 | | 池村さおり |
| 評価方法 | 筆記試験 前期（岩崎・橋本・谷本 75点、鈴木 15点、八木 10点） 授業出席状況 | | | |
| 指定図書 | <ul style="list-style-type: none"> 我部山キヨ子、武谷雄二、藤井知行編：助産学講座 2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 医学書院（岩崎先生・橋本先生・谷本先生使用） 我部山キヨ子、武谷雄二編：助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期、医学書院 我部山キヨ子、藤井知行編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期、医学書院 川添和義著：図解 漢方処方方のトリセツ 第2版、じほう（八木先生使用） | | | |
| 参考図書 | | | | |
| 事前・事後学習 | 女性の健康について、ライフサイクルを通して学ぶ機会としています。多くの知識を身につけ、また自ら女性としての健康について考えるきっかけにしてください。 | | | |
| その他 (ICTの活用) | ※1は受胎調節実地指導員認定講習の基準内容 医学書院 eテキストを使用します。 | | | |

| | | | | |
|---------------|--|-----------------------------------|-------|--------|
| 科目名 | 家族の心理・社会学 | | 科目責任者 | 池村 さおり |
| 単位 | 1単位 (15時間) | | 開講期 | 前期 |
| ディプロマポリシー | <input type="checkbox"/> 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 <input type="checkbox"/> 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 <input type="checkbox"/> 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 <input type="checkbox"/> 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 <input checked="" type="checkbox"/> 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。 | | | |
| 科目の概要 | ・母子や家族を取り巻く心理・社会的問題や母子関係形成の発達課題を知り、対象の心情を理解し、助産師としての関わり方の基礎を学ぶ。 | | | |
| 到達目標 | 1 母子および父子関係の形成と課題について理解し、助産師ができる支援について説明できる。 2 夫婦関係とこどもの発達について理解し、家族・地域での連携・サポートの必要性と助産師の役割について説明できる。 3 社会における家族関係の概念について理解し、多職種と連携した子育て支援について説明できる。 | | | |
| 講義計画 | 回数 | 講義内容 | | 担当教師 |
| | 1 | 女性のライフサイクルにおける社会的背景と身体的・心理的・社会的課題 | | 池村さおり |
| | 2 | 母子関係の形成と課題 | | 永田恵実子 |
| | 3 | 父子関係の形成と課題 | | |
| | 4 | 夫婦関係、家族・地域のネットワークとこどもの発達 | | |
| | 5 | 家族と社会（家族の機能と役割・家族の変化・家族の再編） | | |
| | 6 | 母親・父親と社会 | | |
| | 7 | 社会の中のこども | | |
| | 8 | 日本と世界の子育て支援 | | |
| 評価方法 | 筆記テスト（池村 20 点）※講義の時間の中で確認テストとして実施します 課題レポート（永田 80 点） 授業への出席状況 | | | |
| 指定図書 | ・我部山キヨ子、菅原ますみ編：助産学講座4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学 医学書院 | | | |
| 参考図書 | ・乳児保育研究会編：乳児の保育新時代（改訂4版）、ひとなる書房 | | | |
| 事前・事後学習 | 母子の支援、家族の支援に際しての基礎知識としてください。社会情勢を知るために新聞、報道に関心をもち考える機会にしてください。 | | | |
| その他 (ICT の活用) | 医学書院 e テキストを使用します。 | | | |

| | | | |
|-----------------|---|-----------------------|--------|
| 科目名 | カウンセリング技法 | 科目責任者 | 小林 佐知子 |
| 単位 | 1単位 (15時間) | 開講期 | 前期 |
| ディプロマポリシー | <input checked="" type="checkbox"/> 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 <input type="checkbox"/> 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 <input type="checkbox"/> 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 <input type="checkbox"/> 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 <input checked="" type="checkbox"/> 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。 | | |
| 科目の概要 | ・ カウンセリングの基本的理論を学び、ロールプレイ、小グループでのディスカッションをとおして、自己理解を深め、対象者との関わり方を習得する。 | | |
| 到達目標 | 1 自己理解・他者理解とともに、コミュニケーションやカウンセリング方法について理解する。 2 信頼関係を築くための関わり方について、ロールプレイまたはディスカッションで使用できる。 | | |
| 講義計画 | 回数 | 講義内容 | 担当教師 |
| | 1 | カウンセリングの基本的理論 | 小林佐知子 |
| | 2 | 自己と他者理解 | |
| | 3 | アサーティブ、コーチングとは | |
| | 4 | 母子や家族と信頼関係を築くための基本的姿勢 | |
| | 5 | ロールプレイ、グループディスカッション | |
| | 6 | | |
| | 7 | | |
| | 8 | 発表、リフレクション | |
| 評価方法 | 授業内の課題、グループワーク参加状況、授業出席状況で 30 点 筆記テスト（資料持ち込み可）70 点 | | |
| 指定図書 | ・ 講師選定 | | |
| 参考図書 | ・ 堀内成子、片岡弥恵子編：助産学講座 5 助産診断・技術学 I、医学書院 | | |
| 事前・事後学習 | 助産師の指導技術の基礎となる授業です。自分の行動、言動に敏感になり、相手の話を聴くとはどういうことか、考える機会としてください。 | | |
| その他 (ICTの活用) | | | |

| | | | | |
|---------------|---|---|-------|--------|
| 科目名 | 健康教育演習 | | 科目責任者 | 池村 さおり |
| 単位 | 1単位 (15時間) | | 開講期 | 通年 |
| ディプロマポリシー | <input type="checkbox"/> 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 <input type="checkbox"/> 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 <input type="checkbox"/> 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 <input checked="" type="checkbox"/> 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。 | | | |
| 科目の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活している人々に対して、対象の年齢や理解度に合わせた健康教育の指導方法について学ぶ。 ・実際に指導を実施し、リフレクションを通して、指導技術方法の改善点を見出し、今後に役立てる手立てとする。 | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 健康教育の基本とプロセスを理解する。 2 妊婦への支援を理解し対象に合った両親学級を企画・実施できる。 3 発達段階に合わせた性教育の意義と方法が理解し、企画・運営できる。 4 見学・実施・リフレクションを通して効果的な両親学級・性教育の指導方法を考えることができる。 5 メンバーシップ・リーダーシップを発揮しチームで目標達成ができる。 | | | |
| 講義計画 | 回数 | 講義内容 | | 担当教師 |
| | 1 | 相談・教育の基礎、相談・教育活動、相談・教育の方法、集団指導 (出産準備教育) | | 池村さおり |
| | 2 | 両親学級見学 (清水病院) | | |
| | 3 | 両親学級の企画書作成 | | |
| | 4 | 両親学級デモンストレーション | | |
| | 5 | 両親学級実施 (静岡市立清水病院) | | 稲川由美 |
| | 6 | 助産師が性教育を行う意義、アンケート作成の留意点 他 | | |
| | 7 | 助産師に期待する性教育 | | |
| 8 | 性の多様性を学ぶ (演習) | | | |
| 評価方法 | 母親学級指導案・実施・リフレクション (池村 80 点) 性教育リフレクション (稲川 20 点) | | | |
| 指定図書 | <ul style="list-style-type: none"> ・堀内成子、片岡弥恵子編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ、医学書院 ・川島広江、大石時子編：助産師のための性教育実践ガイド、医学書院 | | | |
| 参考図書 | | | | |
| 事前・事後学習 | 知識を対象にわかりやすく伝えるためには、どのようなことが大事なのかを考える機会にし、実習に活かせるようにしましょう。 | | | |
| その他 (ICT の活用) | ※6、7、8は受胎調節実地指導員認定講習の基準内容 医学書院 eテキストを使用します。 健康教育の発表はパワーポイント等を使用することがあります。 清水病院の両親学級は、科目の時間だけでは準備できません。空きコマ (自己学習時間) を計画的に活用して準備を進めましょう。 | | | |

| | | | |
|--------------|---|--|-------|
| 科目名 | 助産学研究 | 科目責任者 | 稲川 由美 |
| 単位 | 1単位 (15時間) | 開講期 | 通年 |
| ディプロマポリシー | <p>□1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>□2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。</p> <p>☑3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。</p> <p>□4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。</p> <p>□5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。</p> <p>☑6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。</p> | | |
| 科目の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 論理学の基礎的知識を理解し、論理的な文章の表現方法を学ぶ。 ・ 分べん介助実習で関わった事例について、研究的視点（過去の研究から得られた知見などと照らして分析的に評価する視点）をもち自己のケアを振り返ることで、助産ケアの視野を広げ、自己の課題を明確にする。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 研究することの意義・プロセスが理解できる。 2 思考を整理し、論理的な文章の組み立てができる。 3 実習で関わった事例の助産過程を、文献などを用いて意味づけすることができる。 4 事例をケーススタディとしてまとめ発表することができる。 | | |
| 講義計画 | 回数 | 講義内容 | 担当教師 |
| | 1 | 看護研究とはⅠ 研究の意義、重要性、倫理的配慮、研究過程の概要、研究デザイン、ケーススタディの進め方 | 稲川由美 |
| | 2 | 看護研究とはⅡ 文献、データの分析、ケーススタディ・研究計画書を作成 | |
| | 3 | 説得力のある文章表現とは 論理的な文章の組み立て | 葉口英子 |
| | 4 | 「論理」「論理力」とは何か 思考を整理する | |
| | 5 | 分べん介助実習で関わった事例について、ケーススタディとしてまとめる | 稲川由美 |
| | 6 | | |
| | 7 | | |
| 8 | | | |
| 評価方法 | 小論文（葉口 30点） 授業での課題・研究抄録・発表（稲川 70点） | | |
| 指定図書 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 葉口英子著：看護師のための伝わる文章・文書作成ガイドブック～論理的思考で書くスキルを鍛えよう～、ナカニシヤ出版（葉口先生使用） ・ 黒田裕子著：黒田裕子の看護研究 Step by Step 第6版、医学書院 | | |
| 参考図書 | | | |
| 事前・事後学習 | 分べん介助実習で関わった事例を研究的視点にもとづき振り返り、実践したケアの再評価を行うことで、助産学の科学的思考や探求していく能力を養いましょう。 | | |
| その他 (ICTの活用) | 文献検索、文献学習ではデータベース検索、電子ジャーナル、学術情報リポジトリなどを活用します。 発表会では、プロジェクターを利用してプレゼンテーションを行う予定です。 | | |